

## 2. 環境目的・目標の計画と実績

### (1) 2006年度の実績と評価

環境管理活動上、電力所が重点的に取り組むべき課題に対して、目的・目標を定め環境活動に取り組んでいます。

#### 2006年度EMS目標の取り組み結果

項目	計画		結果	備考
	目標値	実施方法		
事務所内電力使用量の削減	1999年実績から19%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休み及び時間外の不要な照明の消灯</li> <li>・冷暖房の温度設定(冷房28℃、暖房19℃)</li> <li>・不使用OA機器の電源断の実施</li> <li>・時間外の適正実施、管理</li> <li>・空調運転停止時間の管理</li> <li>・空調設備他省エネ機器の導入検討</li> <li>・執務室他不要蛍光灯の間引き</li> </ul>	1999年実績から21%削減	目標達成
事務所活動における紙の使用量削減	2002年実績から11%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両面コピーの活用</li> <li>・コピー用紙のA4サイズ統一</li> <li>・ミスコピー用紙の裏面活用</li> <li>・ミスコピー防止の徹底</li> <li>・プロジェクターの活用(会議における紙の使用量削減)</li> </ul>	2002年実績から24%削減 (参考)1999年実績から42%削減	大幅に目標達成
環境に優しい行動の積極的推進	32点/人 (環境活動をポイント化:P16参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に優しい行動の実施(ポイント設定項目)</li> <li>電力所周辺3S活動</li> <li>徒歩、自転車での通勤</li> <li>私有車運転時の省エネ運転</li> <li>植樹、清掃等環境活動への参加</li> <li>不法投棄ゴミ発見時の通報</li> <li>割り箸リサイクル活動 など</li> </ul>	36点/人	目標達成
溢水電力*に繋がる事故障害件数の低減	2003年～2005年の平均から10%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備懸案事項の計画的な解消</li> <li>・水車発電機巡視の強化(異常の早期発見、対応)</li> <li>・チェックリスト等による施工不具合の撲滅</li> <li>・再発防止、水平展開の確実な実施(検討体制、原因究明方法等の整備)</li> </ul>	2003年～2005年の平均から29%増加	目標未達
オール電化普及促進	120ポイント (IHクッキングヒーター、電気温水器の設置数をポイント化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オール電化展示即売会への参加</li> <li>・各種イベント時におけるPR活動</li> <li>・訪問PR活動</li> <li>・親戚・友人・知人への勧誘活動</li> <li>・取引先への勧誘活動</li> </ul>	195ポイント	大幅に目標達成
オフィスクリーンの推進	平均85点以上 (チェックリストによる点数化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスクリーン定着化に向けた取り組み(チェックリストを用いた実施状況確認)</li> <li>・文書電子化の推進</li> <li>・発電所資材、備品類の整理、整頓</li> </ul>	88.4点	目標達成

なお、「社用車の燃費向上」など活動が定着したものについては、特に目標値は定めず、「維持運用活動」として継続して取り組むこととしています。

\*事故や作業などにより発電機を停止した場合、発電可能な水が河川にあるにもかかわらず、発電に使用されない(資源を有効に利用しない)ことになります。このとき使用されなかった水量を溢水(いっすい)といい、その溢水に相当する仮の発電電力を溢水電力といいます。